

2018年3月期第1四半期決算 電話会議Q&A要旨

日本水産株式会社
経営企画IR部
経営企画IR課

- Q. 南米鮭鱒養殖事業の業績について、計画に対する進捗状況や手応えについて教えて欲しい。また、今後の鮭鱒の魚価の推移をどのように考えているかについても教えて欲しい。
- A. 魚価については高止まりしており、業績は順調に推移している。今後の鮭鱒の魚価については、年内は大きく変動することは無いのではないかと想定している。理由としては、アラスカの紅鮭が米国内で多く消化されたことに加え、価格が高騰していることから日本への輸出量が少なく、また、ロシアの紅鮭もアラスカの紅鮭の価格の影響を受け高値で推移することが予想されるからである。
- Q. 水産事業の連結調整が前年同期比で増加した要因について教えて欲しい。
- A. 主な要因としては、南米から積送された鮭鱒について、期末に在庫として残ったものを連結決算上内部利益の消去として連結調整している影響である。今四半期は販売のタイミングなどもあり、調整額が増加している。
- Q. ファインケミカル事業の医薬原料について、来期にかけての利益の見方や海外展開への準備状況などについて教えて欲しい。
- A. 現時点で来期の利益の見通しについて申し上げることは出来ないが、2017年5月に竣工した鹿島医薬品工場を高純度EPAの海外向けの生産を計画している。海外展開についての具体的な行動進捗については、現時点では秘密保持契約などもあり、回答を控えさせて頂きたい。
- Q. 北米水産加工事業について、第1四半期の状況と第2四半期以降の見通しについて詳細を教えて欲しい。
- A. 前期は助子の卵率低下などで苦戦したが今期は回復している。フィレの市況が引き続き低調に推移している影響も少なからずある。第1四半期だけで見ると販売のタイミングなどがあるため、もう少し長期的な目線で見れば改善の度合いが見えてくると考える。

- Q. 国内食品事業について、第 1 四半期の状況と第 2 四半期以降の見通しについて詳細を教えてください。
- A. 家庭用冷凍食品は引き続き伸びている。魚肉ソーセージも宣伝効果があり販売好調だった。しかし、原料不足などにより常温食品や業務用の水産関係の冷凍食品が苦しんだ。第 2 四半期以降の打ち手としては、すりみの価格上昇による環境変化をプラスに捉えた取り組みに加え、不足する原料については代替品を使用した製品を準備し、販売を予定している。
- Q. 海外食品事業について、第 1 四半期の状況と第 2 四半期以降の見通しについて詳細を教えてください。
- A. 北米について、家庭用冷凍食品会社は回復基調で推移しているが、業務用冷凍食品会社は原料調達で苦戦したことから減益となった。ヨーロッパについて、イギリスの食品会社(Caistor Seafoods)については今年 4 月からスタートした。規模の面から見ても当期の損益インパクトは大きくない。フランスの食品会社については、新工場の立ち上げなど生産規模を拡大して市場を獲得していく施策を引き続き取っていく。
- Q. ファインケミカル事業の売上高について、計画での増収幅と比較すると物足りなさを感じるが、今後の進捗をどのように考えているか教えてください。
- A. 通販事業について、広告宣伝費を投入した成果が第 1 四半期で出てきていないのが主要因。トライアル顧客は増えており、継続顧客に繋がる施策を打ち始めている段階であり、もう少し長い目で見ると必要があると考えます。
- Q. 機能性表示食品について、現状と課題について教えてください。
- A. 前期の売上は約 3 億円程だが、販売規模としては 10 億円を将来的な目標としている。EPA は医薬としての認知度は高いが、食品の健康素材としての認知度は高くない。機能性の幅を広げるために、「中性脂肪」だけでなく「認知機能（記憶力を維持する）」商品も展開している。今後は、EPA 単独だけでなく、減塩などと組み合わせた商品開発を考えている。

以上